ぐんまの家
Gunma Housing Award

特　別　賞
住宅金融支援機構
北関東支店長賞

総社町総社の家

設計者／株式会社小林建設一級建築設計事務所
施工者／株式会社小林建設

設計趣旨 CONCEPT

群馬県は近畿、北九州とならんで古墳の多い地域であり、そのなかでもこの総社地区は特に古墳の密度の高い地域。周辺にも歴史ある建物（総社大明宮・総社資料館・光巌寺など）が残されている中で、その地域に馴染むような家にしたいと思い外観は付け柱・付け梁で飾り、色合いも考慮した。内観は群馬県産の構造材を現しにした真壁造で、時と共に味わいが増していく。

旗竿型と呼ばれる敷地で、東側へ路地状になってメイン道路につながる。建物の配置計画としては、突き当りの敷地のため車の旋回スペースを確保する必要がある。本来ならリビング前の庭を車が通るのは避けたいところだが、南側の敷地の建物が無いスペース（東側）に採光考えてリビングを配置し、駐車スペースを敷地の奥（西側）へ配置した。

東西に長く南北に短い敷地の為、建物をなるべく薄く計画し、庭と車の通路を確保した。全体的に南側の建物の影になりやすいが、1階のダイニング、キッチンにも明かりを取り込みたかったので2階の南面に大きな吹抜けをとった。

リビングの一角、畳の床を小上がりにし、段差を利用した引出し収納を設け、リビングが片付くように配慮した。窓は茶の間に座ったときの高さに合わせ、低くした。リビング東側の障子と、TV台としても使う収納も茶の間の高さに合わせて水平ラインをデザインした。この茶の間、夏は風が抜ける最高のゴロ寝スペースとなり、冬は収納式の掘り炬燵を出すと落ち着く団欒の場となる。

薪ストーブを囲むように、ダイニング、キッチン、リビング、茶の間を配置した。階段もそこに配置して、2階の個室へ行くときも家族と顔を合わせられるようにした。

カーテンの代わりに障子を沢山入れた。（リビング、茶の間の照明も障子で作った。）昔ながらの文化を残す意味と、断熱性UPにもなる。障子は引き込めるようになっているため、サッシの半分に掛かるのではなく、ガラス全面を出せる。

引き込めるのは障子だけでなく、出入り口の建具はすべて引戸にした。開けっ放しにしても邪魔にならず、風の通り道になる。

一直線の水廻り動線。キッチンから食品庫を通って、水廻りへ。ご主人も料理好きだという事で、食品庫も広めにした。脱衣室からウォークインクローゼットを通って外物干しへ。洗濯の家事動線も考えた。共働きの夫妻のため、物干し場に屋根を掛けた。また、外から洗濯物を見えづらくするように縦格子を設置。外観も引き立たせた。

明かりが入りづらい洗面に、南側玄関からの明かりを入れる工夫として、ガラスの仕切り壁にしている。

2階は、ホールに本棚を設置した。カウンターを置けば、家族共有の読書スペースになる。

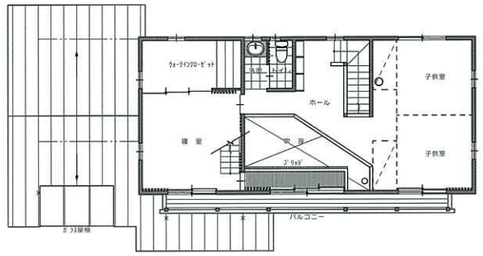
大きな吹抜けにはキャットウォークをつけ、窓の開閉と、掃除が出来るようにした。

子供室は将来仕切れるように、収納やスイッチの位置も考慮してある。

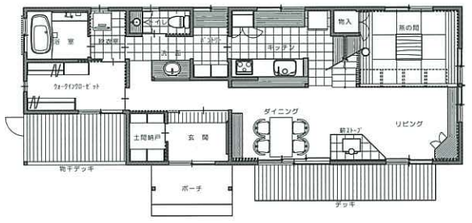
2階のウォークインクローゼットは、奥様の書斎スペースとして使う可能性もあるので引戸で仕切り、寝室と空間をつなげられるようにした。（ご主人の趣味室はロフト。寝室から階段で上がれる。）

全体として、家の性能（耐震、省エネルギー性など）を考え、当時の基準で耐震等級2以上を確保し、省エネルギー性は等級４をとっている。また、省エネに関しては気密測定も実施した。相当隙間面積1.21㎠/㎡以下であった。

平面図

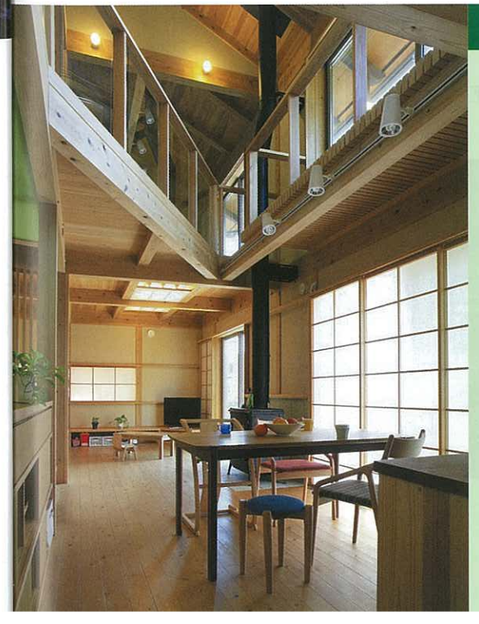


2F



1F

講評 REVIEW



落ち着いた外観のお住まい。建築に当たって意図されていたとおり、古墳や歴史ある建物が多いこの地域によく馴染んだ佇まいです。

玄関を通ってお住まいの中に入ると、県産材を活用した壁、床、天井などに大きな吹き抜けから入る光が当たって、「木の温もり」と「新しい木肌の明るさ」が一層引き立ち、とても華やかな感じ。

また、吹き抜けを通して１階にいらっしゃっても２階の雰囲気を感じられるとのこと。この吹き抜けは、１階に明るさを取り込むだけではなく、お住まい全体の雰囲気を一体化することにも大きな役割を果たしています。

ガス、石油ボイラー、エアコン、薪ストーブに太陽熱と、生活に必要なエネルギーは偏り無く色々とご利用されたいとのこと。新築後にお施主さま自らが手作りされた雨水タンクや薪棚などもあり、省エネにも配慮されたお住まいです。

これらの他にも、ご多忙な毎日を効率よく過ごすために考えられた、とても使いやすそうな家事動線など、お住まい全体にご夫婦の想いがいっぱいつまっている、とても素敵なお住まいです。